

# 若冲と京の美術

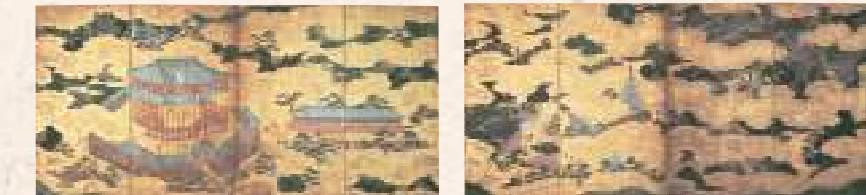
細見コレクションの精華

## 都に遊ぶ — 名所遊楽と祭礼の世界 —

京の都における、長い歴史を持つ祭礼や、名所への行楽を楽しむ人々。その情景を生き生きと描いた絵画が多数制作されました。



「棕政」印〈北野社頭図屏風〉江戸時代前期(17世紀)



〈東山名所図屏風〉桃山時代(17世紀)



小澤華嶽(ちようちよう踊り図屏風)江戸時代後期(19世紀)

## 都の美意識Ⅰ — 王朝のみやび —

貴族文化の中で生み出された和歌や物語。それらは、美しい料紙に記され、また絵画や工芸の意匠として広く受け継がれました。



依屋宗達(歌仙絵色紙「藤原仲文」)江戸時代前期(17世紀)



〈定家詠月次花鳥詩絵重箱〉江戸時代前期(17世紀)



【重要文化財】〈山王靈験記絵巻〉室町時代(15世紀)(会期中巻き替え)



〈撫子図屏風〉江戸時代前期(17世紀)



岩佐又兵衛(源氏物語図屏風「総角」)江戸時代前期(17世紀)



「伊年」印〈四季草花図屏風〉江戸時代前期(17世紀)

## 若冲と都の絵師 — 華ひらく個性 —

江戸時代の京は、俵屋宗達、円山応挙、池大雅ら、多数の個性的な絵師を生み出しました。なかでも伊藤若冲は、きわめて独創的な画風で、人々を魅了しました。

## 都の美意識Ⅱ — 茶の湯の心 —

鎌倉時代に禅宗とともに伝えられた茶の湯は、室町・桃山時代を経て、さまざまなやきものを生み出しました。茶会で用いられた書跡などともに紹介します。



【重要文化財】〈芦屋叢地風鹿園真形釜〉室町時代(15世紀)



〈志保茶碗 銘「弁慶」〉桃山時代(16世紀)



伊藤若冲(糸瓜群虫図)江戸時代中期(18世紀)(後期展示)



伊藤若冲(花鳥図押絵貼屏風)江戸時代中期(18世紀)



伊藤若冲(鼠婚礼図)江戸時代中期(18世紀)



「伊年」印〈四季草花図屏風〉江戸時代前期(17世紀)



伊藤若冲(雪中雄鶏図)江戸時代中期(18世紀)(前期展示)